

(平成六年六月～十月末)

◇研究発表例会

七月七日(木)午後四時十分

於 一三〇三教室

『仏護註』第十八章に見られる仏護の二諦観」

博士後期課程三回生

加藤 秀樹氏

『起信論』の縁起説」

専任講師 織田 顕祐氏

研究発表終了後、第一研究室分室1において発表者を囲んで座談会がもたれた。

◇研究発表例会

十月五日(水)午後四時十分

於 一三二〇教室

『成唯識論』所説の十二有支縁起

——異熟識の考察——」

博士後期課程三回生

山田 信氏

「ジャータカにあらわれる辟支仏」

教授 長崎 法潤氏

研究発表終了後、第一研究室分室1において発表者を囲んで座談会がもたれた。

◇修士論文中間発表会

十月十八日(火)午後四時十分

於 一二一〇教室

全員の発表終了後、学生談話室(ビッグヴァレー)で発表者を囲んで懇談会を持った。

編集 後記

『セミナー』六十号をお届け致します。いつものことながら、発行が遅れましたことをおわび申し上げます。

本号には、三桐、吉元、一色の論文と、長崎の研究ノート、福田氏の書評、学外からは昨年度と今年度の二年間にわたって講師をお勤めいただいた古賀先生のご論文、さらに今年度の新入会員歓迎会における学会長の講演を掲載することができました。ご協力いただきました方々に甚深の感謝を申し上げます。とくに古賀先生には公務繁多の中、草々と玉稿を賜

りありがとうございました。

本号は六十号ということで、セミナー発刊三十周年を記念号でという企画もありましたが、学内外の諸般の事情により断念致さざるをえませんでした。それというのも、ここ数年の大学をめぐる状況の変化とそれに対応するための取組にかなりのエネルギーを使っているという事情があるからです。大学が世間の中で成り立つものでなければならぬとすると、世間の変化は大学に改革を迫ります。従って、そうした取組は単に大学の生き残りということを超えて、世間に対する大学の使命であるように思います。そしてその変化は今後いっそう激しくなっていくことが予想されます。そういう時代であればこそ、その中であって時代の変化を越えた不変の真実の発見がいよいよ人間の差し迫った課題になってくるように思います。この様な事情を考えれば、本誌もその内容を見直さなければならぬ時期にきていることは確かです。会員の皆さんからも積極的なご助言をいただければ幸いです。